

減災対策についての アンケート調査結果

平成30年2月28日

神戸土木事務所 企画調整担当

■ アンケート調査の背景① | アンケート対象の選定

モデル地区について

神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画では、行政、県民及び企業などが相互に連携しながら計画を推進できるよう、以下のモデル地区を選定しています。

①新湊川・長田南部地区

②妙法寺地区

③三宮駅から神戸駅間の地下空間を含む地区

↑ 今回、三宮駅から神戸駅間の地下空間を含む地区において減災対策についてのアンケートを行った。



■ アンケート調査の背景② | 近年の浸水被害の事例

近年、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しており、国内外で地下街等における浸水被害が発生しています。

【H11・H15福岡水害(福岡市営地下鉄 博多駅)、H24米国ニューヨーク都市圏大水害、H25台風18号(京都市営地下鉄)など】



写真出典:国土交通省
九州地方整備局HP

■ アンケート調査の背景③ | 水防法の改正(地下施設)

平成27年7月に改正された水防法において、市町村地域防災計画に名称及び所在地が定められた地下街等では、利用者の円滑かつ迅速な避難の確保及び浸水の防止のための処置に関する計画の作成が義務づけられています。(水防法15条の2)

対象地下街等の 避難確保、浸水防止計画作成状況



- 全国では、約3割が未計画(H29.3.31時点)
 - 神戸市対象7地下街全て策定済み
 - モデル地区である三ノ宮から神戸駅間の地下空間を含む地区では、
 - * デュオこうべ:2015年改定
 - * 三宮地下街(さんちか):2015年改定
- (水防法第15条の2に準じ作成)

平成29年11月29日 (神戸新聞より)

災害時の地下街利用者

通勤・通学

- 本当に逃げる必要ある？
まだ、大丈夫



観光(外国人、修学旅行)

- 土地勘がない
言葉がわからない



高齢者、子供連れ、身体の不自由な方

- 避難に時間がかかる
パニックに巻き込まれたら怖い



どうしたらいいかわからない！

■ アンケート調査の背景⑦ | さんちか・デュオこうべの取組み

浸水時避難確保・浸水防止計画 (三宮地下街(さんちか)、デュオこうべ)

- 身体に障害をもった人、傷病人、高齢者、乳幼児、妊産婦、日本語の理解が十分でない外国人、地理に詳しくない旅行者を**災害時要援護者**としています。
- **災害時要援護者**に最大限に配慮すること。
- 避難誘導の際は、地下滞在者の協力も得ること。

7

■ アンケート調査の背景⑧ | 地下街で働く方の思い

地下街で働く人々・・・

店舗経営者、社員

→ お客様、従業員、お店を守りたい！
店舗に居ない時がある...

アルバイト、パート

→ お客様、お店を守りたい！
自分の命も大事！



非常体制時の店舗の役割(避難計画)

- ・ 入店客がいないことを確認し、店舗閉鎖。
- ・ 来街者の避難誘導に当たる。

8

地下街店舗で働く人々・・・

地下街を訪れる不特定多数の人々を助け、
避難の流れを作り出す重要な担い手。



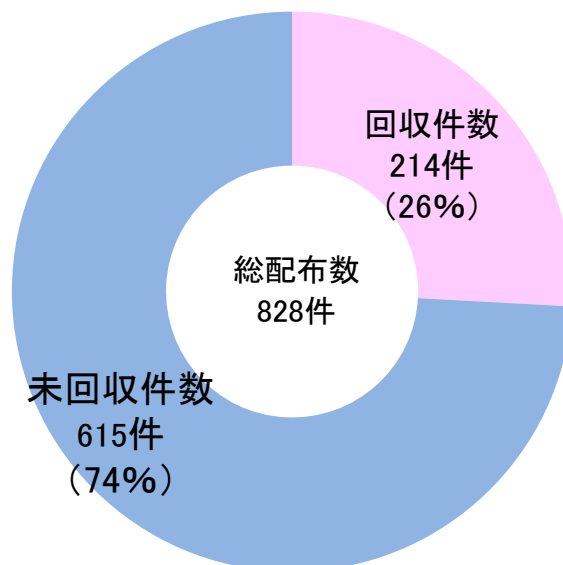
今回、地下街店舗で働く方々に減災対策に
ついてのアンケート調査を行った。

■ アンケート調査概要

調査期間：H29.12/8～12/22

対象：さんちか、デュオこうべ、さんセンタープラザ（地下店舗）
の従業員（アルバイト、パート含む）

配布数：828件（各店舗に3部配布）



アンケート調査対象について

□さんちか、デュオこうべ、さんセンタープラザでは、防災訓練を年2回、実施している。



アンケート調査結果① | 回答者の属性

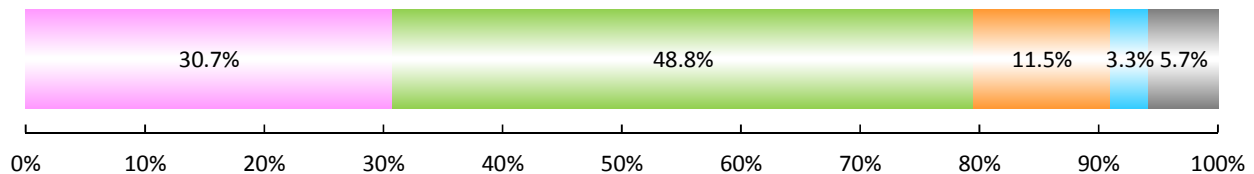
□約80%の方が、地下街の店舗で働いている。（責任者約31%、従業員約49%）

□年代の偏りが少なく、幅広い年代の方が回答。

「さんちか」や「デュオこうべ」、「さんセンタープラザ」などの地下街や地下鉄、「神戸駅南駐車場」などの

地下駐車場などの利用状況（いくつでも）

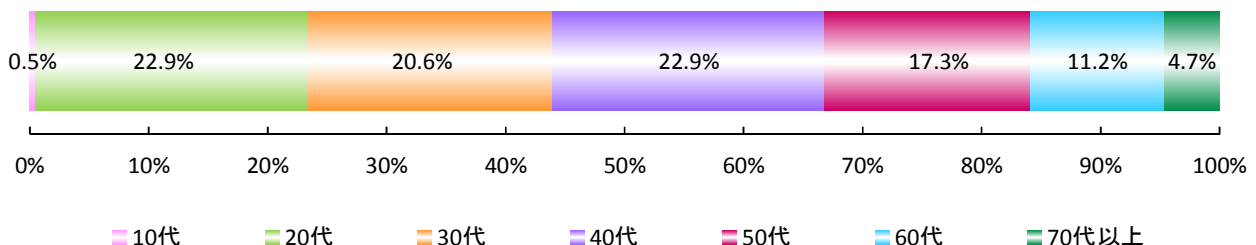
n=244



- 地下街の店舗で、店舗の責任者として働いている
- 地下街の店舗で、従業員として働いている
- 通勤などで、地下鉄を利用している
- 通勤などで、地下駐車場を利用している
- その他

n=214

アンケートをご記入された方の年齢

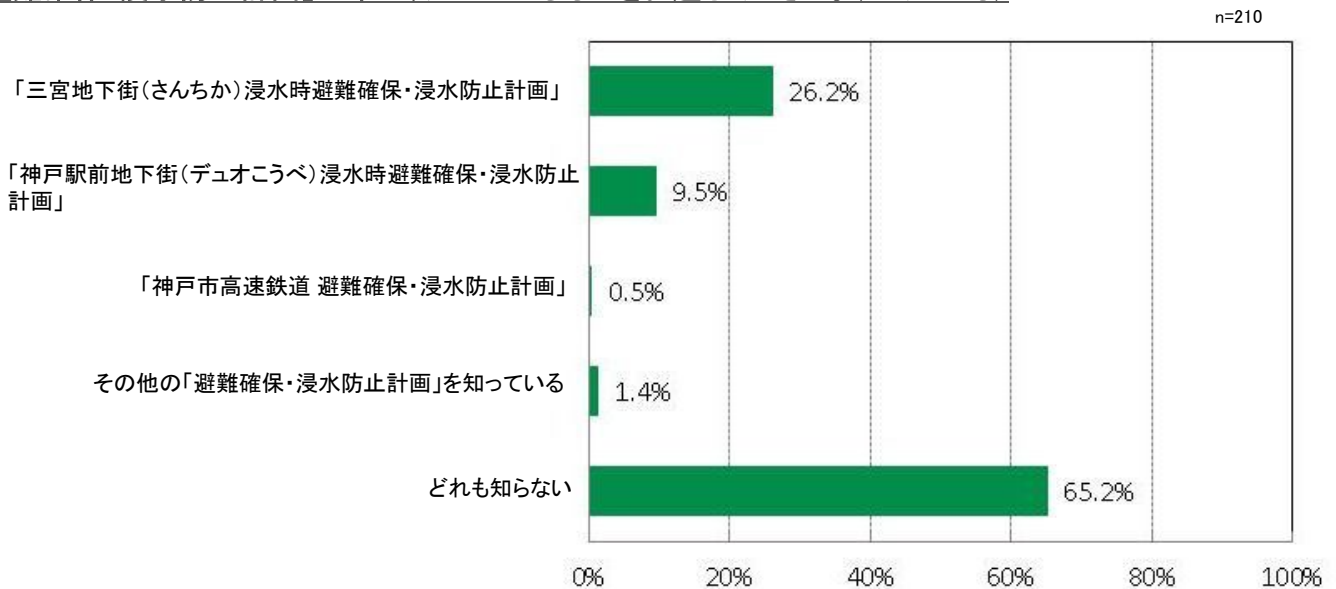


■ アンケート調査結果② | 避難確保・浸水防止計画の認知度

□地下空間で策定された「避難確保・浸水防止計画(以下、避難計画)」に対する認知度は、「さんちか」が約26%、「デュオこうべ」は約10%。

(※)「さんセンタープラザ」は、対象地下街ではないので、地下街に特化した避難計画はない。

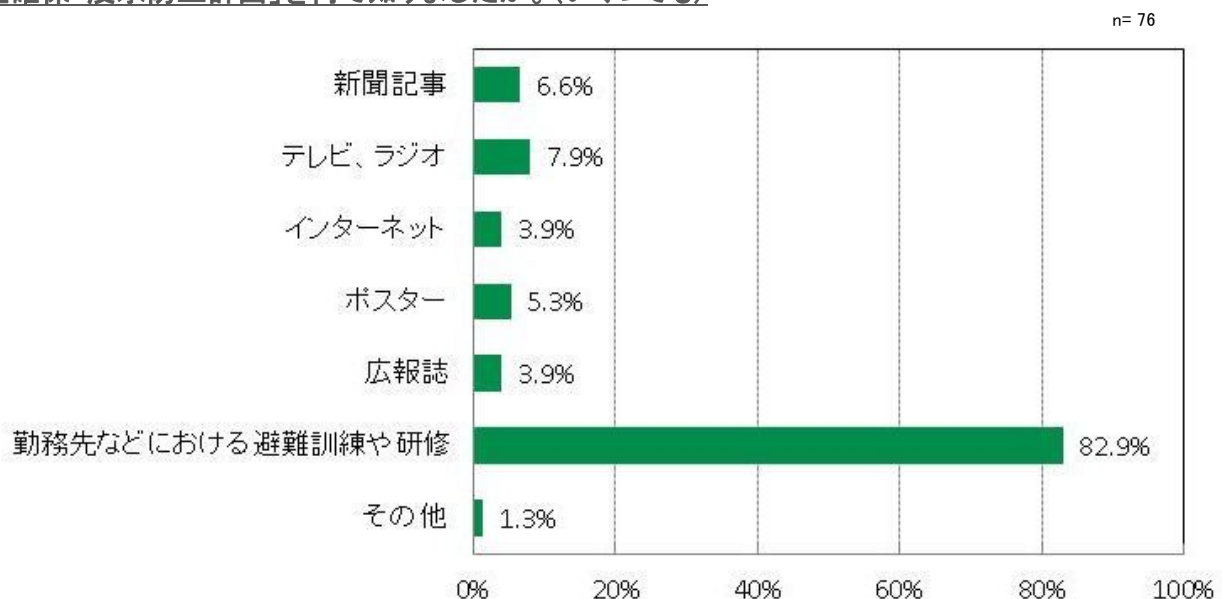
「避難確保・浸水防止計画」の中で、知っているものをお選びください。(いくつでも)



■ アンケート調査結果③ | 避難確保・浸水防止計画の認知媒体

□避難計画を認知したきっかけは、「勤務先における避難訓練や研修」が約83%と非常に高い。

「避難確保・浸水防止計画」を何で知りましたか。(いくつでも)

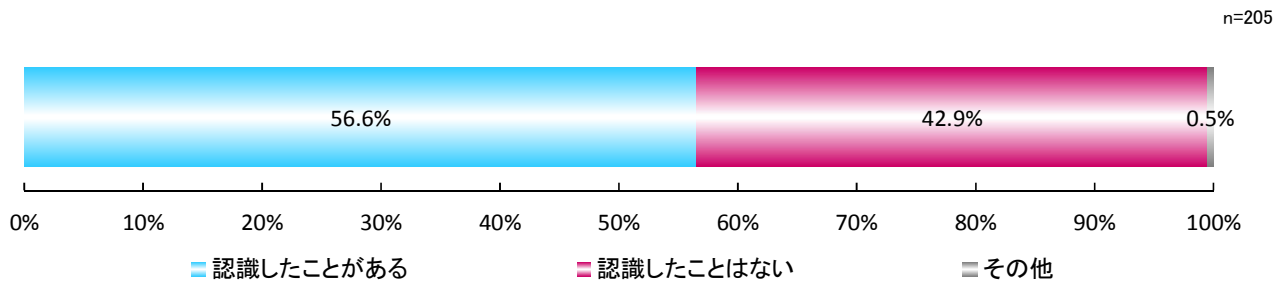


■ アンケート調査結果④ | 地下空間の浸水危険性の認識状況

□地下空間における浸水の危険性は、回答者の半数以上の約57%が認識している。

地下街や地下鉄、地下駐車場などの地下空間は、「くらしの防災ガイド(各区版ハザードマップ)」において「大雨の際、浸水の危険があり、注意が必要な箇所」と記載されています。

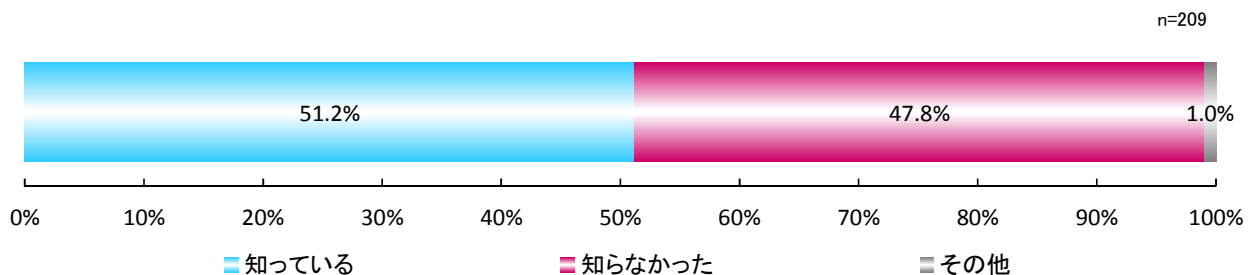
大雨などによる地下空間における浸水の危険性について認識したことがありますか。次の中からお選びください。



■ アンケート調査結果⑤ | 地下空間の浸水対策施設について

□浸水対策施設の設置は、回答者の半数の約51%が認識。

地下街や地下鉄、地下駐車場などの地下空間では、大雨や津波時の浸水対策として、止水板や止水鉄扉、土のうなどの浸水対策施設が設置されています。これら浸水対策施設が設置されていることを知っていますか。次の中からお選びください。



■ アンケート調査結果⑥ | 地下空間の浸水対策実施状況

- 地下空間における浸水対策としては、地下空間における防災訓練などへの参加が約32%と最も多い。
- 一方、水害に備える対策が分からない方や何もしていない方は、約64%と半数以上を占めている。

次の水害に向けた備えの内、あなたが行っている取り組みはありますか。(いくつでも)

「兵庫県CGハザードマップ」や「くらしの防災ガイド(各区版ハザードマップ)」などでハザードマップを確認し、地下空間における浸水の危険性を把握

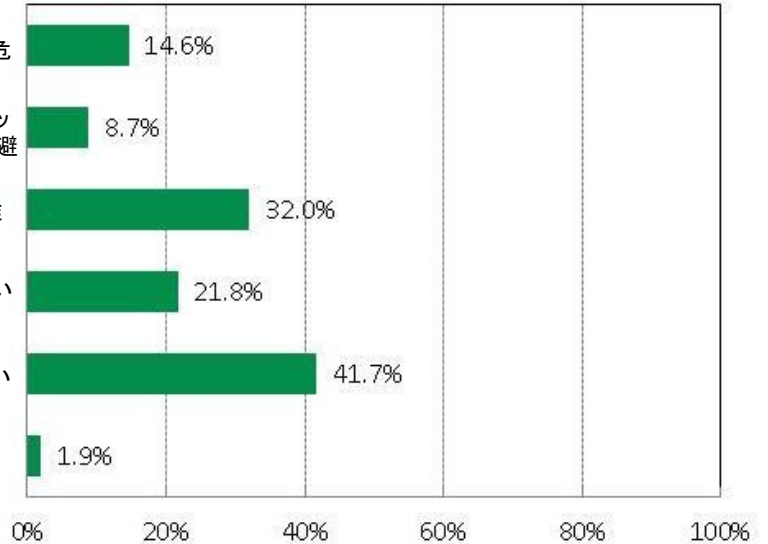
大雨時などに地下空間から円滑に避難するため、「ひょうご防災ネット」に登録することで、緊急情報(地震情報・津波情報・気象警報)、避難情報などをメールで確認

地下空間における防災訓練(水防訓練、情報収集・伝達訓練、避難誘導訓練)などへの参加

水害に備えて何をすべきか、分からない

何もしていない

その他



n=206

17

■ アンケート調査結果⑦ | 行政の支援について

- 地下空間における水害への支援として、回答者の約半数の方が、「防災情報の提供」、「防災訓練に対する支援」、「総合治水の取り組みの周知」が必要だと考えている。

今後、地下街や地下鉄、地下駐車場などの地下空間において、水害への備えを進めるためには、行政によるどのような支援が必要だと思いますか。(いくつでも)

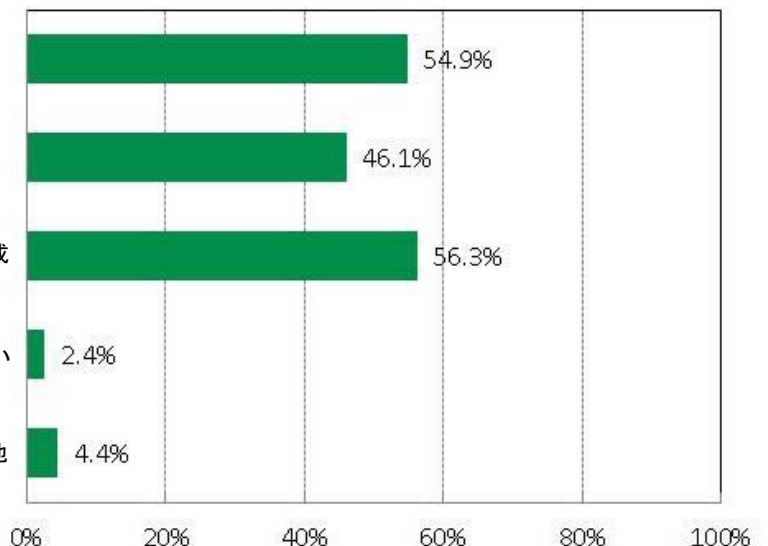
「兵庫県CGハザードマップ」や「ひょうご防災ネット」などによる、防災情報(ハザードマップ、気象情報など)の提供に対する支援

地下空間の事業所などにおける防災訓練などの実施に対する支援

「総合治水」の取り組みの周知による、水害に対する意識の醸成

何も必要がない

その他



n=206

18

■ アンケート調査結果⑧ | 総合治水に関する自由意見

□ 総合治水に関する自由意見では、今回のアンケートを通じた総合治水に対する認識が深まった意見や水害対策・周知活動の推進を求める意見などがみられた。

- 一番に考えられるゲリラ豪雨時の注意雨量や洪水のおそれがある場所、かかる時間(避難出来る時間)をデータ目安がほしい。
- わかりやすい周知活動(テレビCM・ラジオ等での宣伝)
- 普段から勤務している場所の危険性を改めて考えていかなければいけないと思いました。
- このアンケートにより考える意識が出ました。
- 神戸の地域総合治水推進計画を今日インターネットで確認しました。詳しい記載なのでよくわかりました。
- 地下街で働く者として安全な環境で働きたいですし自分の職場がどのような取り組みをしているのか知っておかなくてはと思いました。
- ポスターなどの公衆の目に触れるような機会をもっと広げるとより認識が出来ると思います。
- もっと認知させてほしい。
- 火災、地震に対しての訓練以外にも知っておく事が必要なのでどこかのタイミングで訓練を希望します。

19

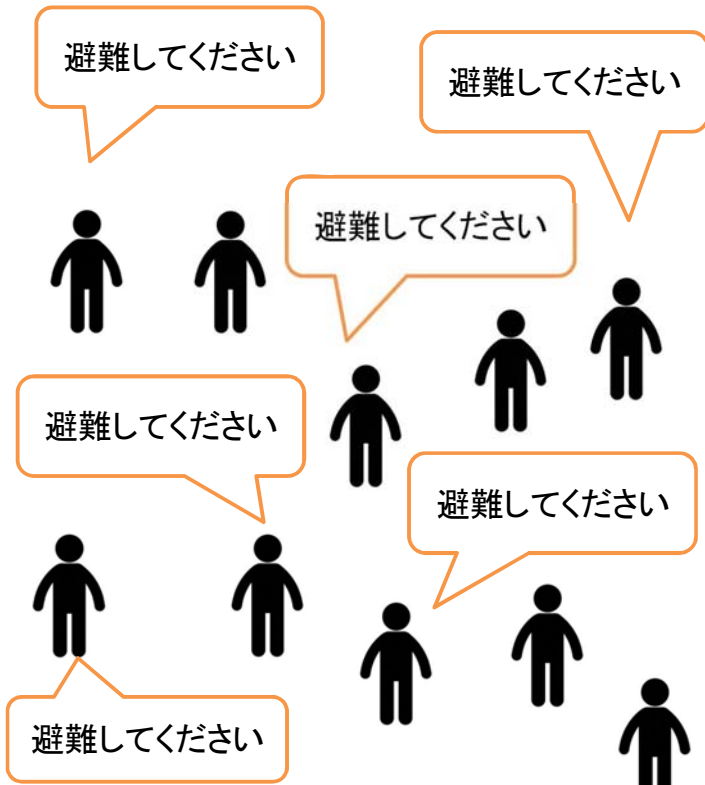
■ アンケート結果 取りまとめ① | アンケートから見える問題点



- 現在の避難計画の認知度は、最も高い三宮地下街(さんちか)でも26%。
- 認知度＝避難計画通り行動する人 と考えると、正しい避難情報が計画通りのタイミングで伝わるのが3割弱。
- 情報が伝わりにくい。
- 避難に時間がかかる人が逃げ遅れる。
- パニックになる危険性。

20

■ アンケート結果 取りまとめ② | 避難計画の認知の重要性1



避難計画の認知度が上がると

- 正しい避難情報が計画通りのタイミングで伝わる。
- 周辺に協力を求めて、災害時要援護者を助けることが出来る。
- 落ち着いて行動できる。



21

■ アンケート結果 取りまとめ③ | 避難計画の認知の重要性2

店舗従業員
周辺の人々に協力を要請



- 災害時要援護者を安全に避難させる。
- 地下街を訪れる不特定多数の人を避難させる。
- 店舗従業員の安全を確保。

避難計画の認知度を上げることが重要！

22

これからの取組み

防災訓練



- 今回のアンケートをきっかけに、総合治水に対する認識が深まったという意見があった。
- 店舗で働く人は、入れ替わりが早いので、定期的、継続的に防災意識を高める取組みを行うことが大事。
- 避難訓練や研修による「避難確保・浸水防止計画」の認知度向上の効果が大きいため、警察や消防、神戸市、自衛組織などの関係機関と連携して、避難訓練や研修を継続して実施する。
- アンケート調査を行うこと自体がPRになるので、総合治水に対する認識を深めるため、また、認識の経年変化を把握する意味でも、今後、定期的にアンケート調査を行っていく。